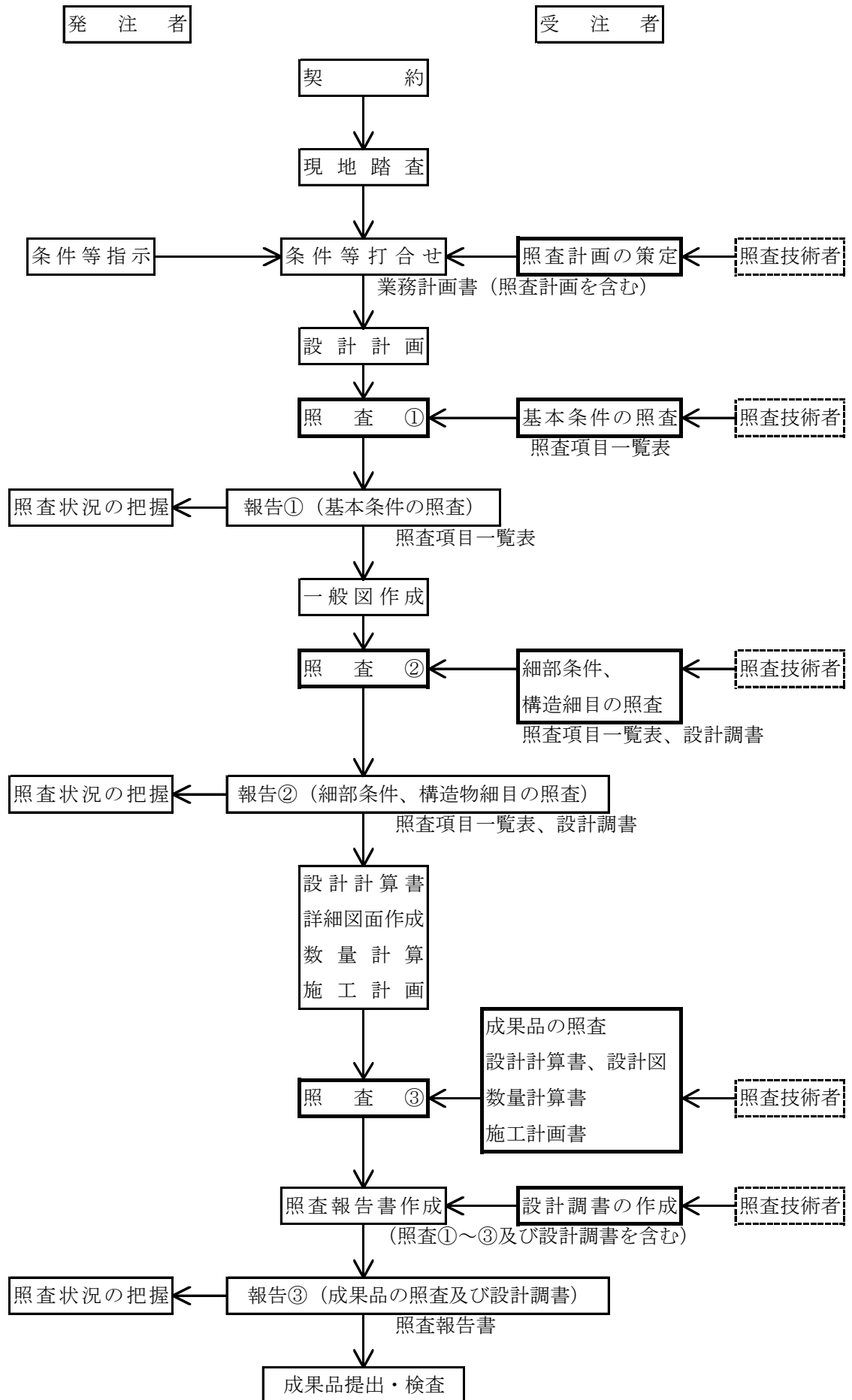


橋 梁 詳 細 設 計 照 査 要 領

平成 2 9 年 1 0 月

橋梁詳細設計照査フローチャート



注 記

※ 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。

※※ 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画書提出時に打ち合わせにより設定する。

基本条件の照査項目一覧表

(照 査 ①)

業 務 名 : _____

発 注 者 名 : _____

受 注 者 名 : _____

照査の日付： 平成 年 月 日

	照査技術者	管理技術者
受注者印		

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No.	照査項目	照査内容		照査①			確認資料	備考
				該当対象	確認			
					確認日			
			該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 （例）関連基準類、過年度成果の該当頁 等	設計業務等照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照	
1	設計の目的、主旨、範囲	1)	設計の目的、主旨、範囲を把握したか。					
		2)	地域構想等に関する上位計画を把握したか。					
		3)	設計の内容、工程等について具体的に把握したか。特記仕様書との整合は確認したか。また、スケジュール管理表を提出したか。					
		4)	技術提案がある場合は、業務計画書に技術提案の内容が反映されているか。					
2	貸与資料の確認	1)	貸与資料は最新版であるか確認したか。また、不足点及び追加事項があるか確認したか。不足がある場合には、資料請求、追加調査等の提案を行ったか。					
		2)	申し送り事項を確認したか。					
		3)	条件明示チェックシートは確認したか。					
3	現地踏査	1)	地形、地質、気象、現地状況（用・排水、土地利用状況、用地境界、浸水想定区域、土砂災害指定地、埋蔵文化財の有無等）を把握したか。					
		2)	沿道状況、交通状況、道路状況、河川状況を把握したか。					
		3)	社会環境状況を把握したか。（日照、騒音、振動、電波状況、水質汚濁、土壌汚染、動植物、井戸使用等） また、環境調査等の資料の有無を確認し入手したか。					
		4)	支障物件の状況を把握したか。（地下埋設物、架空線、マンホール、電柱等）					
		5)	施工計画の条件を把握したか。（時期、ヤード、環境、濁水処理、工事用建物敷地、交通条件、安全性、近接施工、架空線、資機材の進入路等）					
		6)	既設構造物との取り合いを確認したか。					
		7)	施工時の留意事項を把握したか。					
		8)	施工範囲周辺の貴重動植物を確認したか。また、対策の要否を確認したか。					
		9)	施工済み構造物について工事完成図面は確認したか。また現地状況は整合しているか。					
		10)	発注者と合同で現地踏査を実施したか。					

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No.	照査項目	照査内容		照査①			確認資料	備考
				該当対象	確認			
						確認日		
			該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 （例）関連基準類、過年度成果の該当頁 等	設計業務等照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照	
4	設計基本条件	1)	設計に使用する技術基準、参考図書（発注者、隣接工区統一）を確認したか。					
		2)	過年度成果における「申し送り事項」に対して確認し、対応方法について協議したか。					
		3)	予備設計成果において、構造形式の選定は適正か。（経済性、安全性、施工性、維持管理性、景観性、総合評価等）また、LCCは適切に考慮しているか。					
		4)	予備設計で想定している施工計画の前提条件は適正か。また、制約条件に変更はないか。					
		5)	予備設計成果において、構造形式（支承形式含む）、橋長、スパン割りは適正か。					
		6)	耐震設計上の重要度の区分（A種の橋、B種の橋）は適正か。					
		7)	荷重条件（完成形、暫定形、施工時）は適正か。					
		8)	特殊荷重の位置、大きさ、将来荷重（遮音壁、情報版、標識、添架等）の有無は確認したか。					
		9)	新工法、新技術の採用の検討が必要か。					
		10)	暫定計画、将来計画と整合しているか。					
		11)	塩害対策の必要性を確認したか。また、必要な場合、塩害対策区分を確認したか。					
		12)	雪処理の方法を確認したか。（除雪の有無、堆雪帯、積雪深、雪荷重、路肩折れ等）					
		13)	関連する設計、示方書等と整合がとれているか。					
		14)	鋼道路橋設計ガイドライン（案）の適用を検討したか。					
		15)	具体的な維持管理の方法等の計画について条件を確認したか。（点検動線、検査路設置位置、足場等）					
		16)	技術提案がある場合は、業務計画書に技術提案の内容が反映されているか。					
		5	幾何構造、線形条件	17)	隣接工区、同路線橋梁との設計条件の整合は確認したか。また、隣接橋との取り合い（設計範囲、桁高、遊間、沓座、ジャッキスペースの確保等）を確認したか。			
1)	平面及び縦横断線形は道路設計成果と整合しているか。最新条件であることを確認したか。また、道路規格、設計速度は妥当か。							
2)	建築限界を考慮した幅員の設定、幅員構成、幅員変化、視距の確保は道路設計成果と整合しているか。							
3)	建築限界への影響はないか。曲線拡幅、視距拡幅は適切か。							
4)	滞水する可能性（横断勾配反転区間等）がないか確認したか。							
5)	座標系と基準点は適正か。							
		6)	隣接工区（道路、トンネル坑口等）との取合いを配慮したか。 また、段階施工（暫定・完成）について確認したか。					

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No.	照査項目	照査内容		照査①			確認資料	備考
				該当対象	確認			
						確認日		
			該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 （例）関連基準類、過年度成果の該当頁 等	設計業務等照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照	
6	交差条件	1)	河川条件は満足するか。（基準径間長、阻害率、流心方向、桁下余裕、下部工設置方向、堤防定規断面等）					
		2)	道路交差条件は満足するか。（建築限界、桁下余裕、平面線形、桁架設法等）					
		3)	鉄道交差条件は満足するか。（建築限界、桁下余裕、平面線形、桁架設法、架線処理方法等）					
		4)	支障物件への対応方法の検討の必要性は確認したか。					
		5)	交差協議に関わる協議資料作成の種類と内容を確認したか。					
		6)	フーチングの土かぶりは適切か。（交差条件、車道・歩道での使い分け等）					
		7)	建築限界に維持管理余裕量を確保したか。また、通行車両高を確認したか。					
7	地盤条件	1)	地層構成は妥当か。					
		2)	土質定数の設定は妥当か。また、隣接工区との整合は図られているか。					
		3)	支持層の設定位置は妥当か。					
		4)	追加する土質調査・試験はないか。（ボーリングの調査深度は適切か。追加ボーリングの必要はないか。）					
		6)	地下水位、水圧の設定は妥当か。					
		7)	構造図と柱状図との位置関係は妥当か。					
		8)	軟弱地盤として検討する必要性を確認したか。（液状化、流動化、圧密沈下、側方移動など）					
8	耐震性能照査	9)	液状化判定時の地盤面は適正か。					
		1)	耐震検討条件は妥当か。（固有周期、地域別補正係数、地盤種別、設計水平震度、拘束条件等）。					
		2)	設計振動単位が適正か。					
		3)	免震設計の検討の必要性を確認したか。					
		4)	動的解析の必要性を確認したか（地震時の挙動が複雑な橋）。また、適用基準やモデル化の方法を確認したか。					
		5)	地震力を分散させる構造系または多点固定構造に配慮しているか。					
		6)	耐震設計上の基盤面が適正か。					
		7)	津波に対する防災計画の有無を確認したか。					
		8)	曲線、斜橋の影響を考慮する必要性について確認したか。					
		9)	曲線橋、斜橋に関する細目（横変位拘束装置）の適用を確認したか。					
9	使用材料	10)	剛結構造の適用性を検討したか。					
		1)	高強度材料の適用性を検討したか。使用した材料は道路橋示方書に準拠するものか。また、準拠しない場合は実験等で性能を確認しているか。					
		2)	特殊材料の供給条件は確認したか。（市場性、経済性、入手期間等）					
		3)	耐候性鋼材の使用は可能か。また、防食処理方法は確認したか。					

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No.	照査項目	照査内容		照査①			確認資料	備考
				該当対象	確認			
					該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入		
							確認できる資料の名称、頁等を記入 （例）関連基準類、過年度成果の該当頁 等	設計業務等照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照
10	橋面工、橋梁付属 物の基本条件	1)	付属物は、各基準に適合しているか。					
		2)	舗装厚は適正か。					
		3)	歩道構造は適正か。（歩道と自転車道は兼用か分離か、セミフラット構造かフラット構造か）					
		4)	橋梁用防護柵（地覆形状、種別、材質等）および設置位置・設置方法は適正か。					
		5)	落下物防止柵の設置は必要か。必要な場合の荷重条件は適正か。設置範囲は適正か。					
		6)	遮音壁の設置は必要か。高さおよび荷重条件は適正か。					
		7)	照明柱、標識柱の設置は必要か。必要な場合の荷重条件は適正か。					
		8)	排水に関わる基本条件（降雨量、流末処理等）を確認したか。					
		9)	伸縮装置の選定は適正か。（ゴム伸縮の継手の可能性を確認したか）					
		10)	検査路や検査孔の配置計画は、対象橋梁の条件に適合したものと なっているか。（検査動線、設置位置、橋脚・橋台への昇降設備の有無等）					
		11)	支承構造は適正か。（免震、反力分散、固定可動）					
		12)	踏掛板は適正か。					
		13)	護岸工は適正か。					
		14)	適用基準は適正か。					
		15)	落橋防止システムの選定は適正か。（橋軸方向、橋軸直角方向）					
		16)	その他付属構造物を設置する必要があるか。					
11	関連機関との調整	1)	関連機関との調整内容を確認したか。（河川協議、鉄塔、送電線との近接、交差協議、自然公園、保安林及び埋蔵文化財との調整等）					
		2)	地権者及び地元等の調整内容を確認したか。					
		3)	占有者との調整内容を確認したか。					
12	環境及び景観検討	1)	環境及び景観検討の必要性、方針、内容、範囲等を理解したか。					
		2)	環境及び景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は明らかとなっているか。					
		3)	施工範囲周辺の貴重動植物を確認したか。また、対策の要否を確認したか。					
13	コスト縮減	1)	予備設計で提案されたコスト縮減設計留意書を確認したか。					
14	建設副産物対策	1)	予備設計で作成されたリサイクル計画書を確認したか。					
15	地形条件	1)	用地境界は確認したか。					
		2)	施工ヤード、施工スペースは確認したか。					
		3)	資機材運搬路は確保できるか。					

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

追加項目記入表

No.	照査項目	照査内容		照査①			確認資料	備考
				該当対象	確認			
						確認日		
				該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	設計業務等照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照

細 部 条 件 の 照 査 項 目 一 覧 表
(照 査 ②)

業 務 名 : _____

発 注 者 名 : _____

受 注 者 名 : _____

照査の日付： 平成 年 月 日

	照査技術者	管理技術者
受注者印		

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	照査項目	照査内容		照査②			確認資料	備考
				該当対象	確認			
					確認日			
			該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 （例）関連基準類、過年度成果の該当頁 等	設計業務等照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照	
1	協議関連	1)	協議調整事項は設計に反映されているか。					
2	一般図	1)	平面図、縦断図、横断図は妥当か。（様式－1設計基本条件との整合が図られているか）					
3	上部工	1)	適用基準は正しいか。					
		2)	解析プログラム、解析モデル化は妥当か。また、施工方法、施工ステップを考慮したモデルとなっているか。					
		3)	桁配置は妥当か。					
		4)	桁高および桁形状寸法は妥当か。					
		5)	遊間の設定は、地震時移動量を満足するか。また、隣接工区がある場合には、取り合いが考慮されているか。					
		6)	桁端部と桁遊間は妥当か。また、桁端部において維持管理スペースを考慮したか。（人の出入りできる最低限の遊間量、ウェブの切り欠き等）					
		7)	床版形式、床版厚、床組、ハンチ形状は妥当か。					
		8)	入力値と解析の結果で反力（死荷重）は整合するか。					
		9)	構造物の対称性（桁高、部材厚、スパン等）から反力の確認を行ったか。					
		10)	輸送・架設条件を設計に考慮したか。（運搬路、部材長、部材重量、架設方法と順序、施工ヤード、施工スペース、架設時の構造系等）					
		11)	L2地震による設計（主桁、横桁）の必要性について確認したか。					
		12)	施工工程を設計に考慮したか。（クリープ、乾燥収縮、プレストレス導入時期材齢等）					
		13)	材料使用区分は妥当か。（鋼材（普通鋼材、耐候性鋼材）、コンクリート、鉄筋）					
		14)	構造細目は妥当か。（鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置、フック形状等）（断面変化位置、鋼板厚、板幅、材料使用区分、継手部、補剛材等）					
		15)	塩害対策は適切か。					
		16)	防水工は適切か。					
		17)	塗装系、塗装区分は適切か。					
		18)	添架物の支持方法は適切か。					
		19)	維持管理の観点から補修や補強を行う際に作用する荷重等を考慮する必要があるか。					

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	照査項目	照査内容		照査②			確認資料	備考
				該当対象	確認			
					該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入		
							確認できる資料の名称、頁等を記入 （例）関連基準類、過年度成果の該当頁 等	設計業務等照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照
4	下部工	1)	適用基準は正しいか。					
		2)	橋台、橋脚の位置・形状は適正か。					
		3)	支承条件（E,F,M、剛結構造（R）、ジョイントレス構造は妥当か。					
		4)	支承縁端距離は確保されているか。					
		5)	桁かかり長は確保されているか。桁かかり長の算出方法は適切か。					
		6)	形状、寸法の基本的統一は計られているか。また、上部工との整合性を確認したか。（支点位置、構造高等）					
		7)	裏込土、埋戻土の種類と土圧係数は妥当か。					
		8)	施工法は配慮しているか。（運搬路、施工法と順序、施工ヤード、施工スペース、施工区分、コンクリート打設のロット割等）					
		9)	材料使用区分は妥当か。（コンクリート、鉄筋）					
		10)	構造細目は妥当か。（鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置、フック形状等）					
		11)	耐震設計の解析モデルは妥当か。					
		12)	耐震設計上の基盤面、地盤面は適切か。					
		13)	橋脚の地震時保有水平耐力及び応答塑性率、残留変位を確認したか。					
		14)	段違い橋脚の採用適否は適切か。適切な場合、段違い部や桁端部の構造を検討したか。					
		15)	地下水の水位変動や被圧・流速等は確認したか。					
		16)	橋梁周辺の条件に応じた適切なかぶりが確保されているか。また、橋梁周辺の条件に応じた防せい方法であるか。					
		17)	橋台背面アプローチ部の構造は橋台の挙動と同一か。また、異なる場合は変状の速やかな機能の回復が可能な構造となっているか。					
		18)	橋脚の動的解析結果は確認したか。					
		19)	橋座面の排水勾配は確保できているか。また、台座コンクリート、沓座モルタルの構造は適切か。					
		20)	擁壁、護岸工等、近接構造物との取り合いは適切か。					
		21)	橋台周りは道路盛土、切土計画と整合しているか。					

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料	備考
			該当対象	確認			
					確認日		
			該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 （例）関連基準類、過年度成果の該当頁 等	設計業務等照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照
5	基礎工	1) 適用基準は正しいか。					
		2) 基礎形式は妥当か。（直接基礎、杭、ケーソン、ウェル等）					
		3) 形式、寸法は妥当か。（杭であれば、杭種、杭径、杭配置等）					
		4) 動的解析を実施した場合、解析応答値は反映されているか。					
		5) 支持層への根入れは妥当か。また、薄層支持の照査を行ったか。					
		6) 液状化及び流動化の検討は妥当か。					
		7) 軟弱地盤の場合、橋台の側方移動、圧密沈下量、杭のネガティブフリクションの照査を行ったか。					
		8) 近接施工の問題はないか。					
		9) 解析手法は妥当か。					
		10) 施工法は妥当か。（運搬路、施工法と順序、施工ヤード等）					
		11) 材料使用区分は妥当か。（コンクリート、鉄筋）					
		12) 構造細目は妥当か。（鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置、フック形状、杭の段落とし位置、杭頭処理等）					
		13) 埋設物との取合いは問題ないか。					
		14) 地盤改良の必要性を確認したか。					
		15) 土質定数は妥当か。また、隣接工区、計画路線の他設計との整合等が図られているか。					
		16) 地盤から決まる許容支持力、地盤バネ値の設定は妥当か。					
		17) 基礎の地震時保有水平耐力及び応答塑性率、残留変位を確認したか。					

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	照査項目	照査内容		照査②			確認資料	備考
				該当対象	確認			
					該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	確認日 その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等
6	橋梁付属物工	1)	選定形式、位置、寸法は妥当か。					
		2)	適用基準は正しいか。					
		3)	プレキャスト化、二次製品の使用等を配慮しているか。また、現地への運搬、搬入は可能か。					
		4)	採用案の信頼性を確認したか。（採用実績、NETIS登録等）					
		5)	維持管理性は配慮したか。					
		6)	本体との取合いは妥当か。					
		7)	通信管路は計画されているか。					
		8)	照明配置及び照明用電源管路は計画されているか。					
		9)	景観を配慮しているか。					
		10)	排水計算は行われているか。また、計画降雨強度は適正か。					
		11)	路面排水の流末処理は妥当か（二次排水を考慮しているか）。また、道路詳細設計と整合しているか。					
		12)	橋面舗装、橋面防水工は適正か。また、防水上の水抜きは適正か。					
		13)	鋼製排水工がある場合、その下面に防水工が設置されているか。また、桁端防水は計画されているか。					
		14)	橋面舗装厚、付属工（検査路等）の計画変更はないか。					
		15)	支承、落橋防止システム、伸縮装置、防護柵等の設計条件は適切か。					
		16)	伸縮装置、支承の移動量は妥当か。また、上部工の温度変化は考慮されているか。					
		17)	沓のアンカーボルトとPCケーブルが干渉していないか。					
		18)	落橋防止システムの選定は適正か。（橋軸方向、橋軸直角方向）					
		19)	落橋防止構造と横変位拘束構造の設計荷重は妥当か。					
		20)	標識配置は妥当か。					
		21)	橋台背面アプローチ部（袖擁壁、踏掛版等）は適正か。また、その形状を確認したか。					
		22)	護岸工は適正か。					
		23)	付属物相互の取り合いは考慮されているか。					
		24)	維持管理の確実性および容易さに配慮された計画となっているか。（点検の対象、動線の確保、点検空間の確保等）					
7	施工計画	1)	埋設物、支障物件、周辺施設との近接等、施工条件が設計計画に反映されているか。					
		2)	隣接工区（設計条件、使用材料等）との整合性を確認したか。					
		3)	施工方法及び手順は妥当か。また、他工区と施工時期の調整は取れているか。					
		4)	工事用道路（長尺物等の搬入）の経路は妥当か。					
		5)	架設計画で、クレーン組立解体ヤードが確保されているか。					
		6)	鈑桁の架設で横倒れ座屈に対して安全性を照査したか。					
		7)	使用重機の規格、重量は妥当か。					
8	仮設構造物	1)	仮設構造物詳細設計照査要領による。					
9	環境及び景観検討	1)	環境対策（騒音・振動等）は妥当か。また、騒音・振動等は規制値を満足しているか。					
10	コスト縮減	1)	予備設計で提案されたコスト縮減設計留意書について検討を行っているか。					
11	建設副産物対策	1)	建設副産物の処理方法は適正か。また、リサイクル計画書を考慮したか。					

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

追加項目記入表

No.	照査項目	照査内容		照査②			確認資料	備考
				該当対象	確認			
						確認日		
				該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	設計業務等照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照

成 果 品 条 件 の 照 査 項 目 一 覧 表

(照 査 ③)

業 務 名 : _____

発 注 者 名 : _____

受 注 者 名 : _____

照査の日付： 平成 年 月 日

	照査技術者	管理技術者
受注者印		

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

No.	照査項目	照査内容		照査③			確認資料	備考
				該当対象	確認			
					確認日			
			該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 （例）関連基準類、過年度成果の該当頁 等	設計業務等照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照	
1	設計計算書	1)	打合せ事項は反映されているか。					
		2)	PC鋼材配置は適切か。（縁端距離、鋼材間隔等）					
		3)	計算上の仮定値と設計値との差は妥当か。					
		4)	許容応力度の取り方は正しいか。					
		5)	荷重の組合わせと割増し係数は適当か。					
		6)	荷重図、モーメント図、合成曲げ応力図等は作成されているか。					
		7)	上部工の各部材の応力度や変形及び安定照査は許容値を満たしているか。また、単位は適正か。					
		8)	応力分布性状による有効幅、有効座屈長は適当であるか。					
		9)	下部工、基礎工の各部応力及び安定計算結果は許容値を満たしているか。					
		10)	支承部、落橋防止システムの取付け部の照査をしたか。また、他の構造物との干渉を含めたとり合いの照査をしたか。					
		11)	二次応力を計算する必要は無いか。また、二軸応力や応力集中など特殊な応力状態となる箇所の照査を行っているか。					
		12)	破壊安全度の照査をしたか。					
		13)	座屈規定に基づく計算がされているか。（全体座屈、局部座屈、細長比、幅厚比等）					
		14)	施工条件を配慮した計算となっているか。また、施工ヤードの使用など隣接橋との整合性は配慮されているか。					
		15)	最小鉄筋量等構造細目、必要鉄筋量の集計、配筋要領図は正しいか。					
		16)	所要のじん性率を確保するための帯鉄筋を配置しているか。					
		17)	疲労耐久性に関する照査をしたか。					
		18)	反力、移動量は整合しているか。					
		19)	曲線橋または斜角を有する橋梁において、ねじりモーメントの影響を考慮しているか。					
		20)	下部工の計算書と「地盤バネ定数」や「設計反力」が整合しているか。					

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

No.	照査項目	照査内容		照査③			確認資料	備考
				該当対象	確認			
					確認日			
			該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 （例）関連基準類、過年度成果の該当頁 等	設計業務等照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照	
2	設計図	1)	打合せ事項は反映されているか。					
		2)	設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。（特に応力計算、安定計算等の結果が適用範囲も含めて整合しているか。） ・かぶり ・部材厚 ・鉄筋 （径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、主鉄筋の定着長、ガス圧接位置等） ・鋼材形状、寸法 ・使用材料 ・疲労設計結果、架設補強設計結果 ・その他					
		3)	鉄筋と干渉する部材がないか。					
		4)	縮尺、用紙サイズ等は共通仕様書、または、特記仕様書と整合されているか。					
		5)	必要寸法、部材形状及び寸法等に漏れはないか。					
		6)	一般図等に必要項目が記載されているか。（設計条件、地質条件、建築限界等）					
		7)	構造図の基本寸法、座標値、高さ関係は照合されているか。					
		8)	構造詳細は適用基準及び打合せ事項と整合しているか。					
		9)	取り合い部の構造寸法は適正か。					
		10)	レイアウト、配置、文字サイズ等は適切か。					
		11)	付属物の形式、配置、取り合いは妥当か。					
		12)	各設計図が相互に整合しているか。 ・一般平面図と縦断図 ・構造図と配筋図 ・構造図と仮設図					

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

No.	照査項目	照査内容		照査③			確認資料	備考
				該当対象	確認			
					該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	確認日 その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等
2	設計図	13)	使用材料は明記されているか。（橋梁一般図、構造一般図にも明記されているか）					
		14)	上下部工の整合性を確認したか。 ・伸縮装置と橋台パラペット鉄筋及び橋台ウィング鉄筋との干渉の有無 ・橋台・橋脚天端の横断勾配による支承モルタル厚の不足 ・下部工検査路ブラケット等で使用するあと施工アンカーの下部工鉄筋との干渉。 ・踏掛版とパラペット背面のブラケット位置、落橋防止装置の取付け位置。 ・後打ちコンクリート部、支承アンカー箱抜きと横拘束筋、添架物箱抜きを補強筋等					
		15)	橋台パラペットは上部工のPC鋼材の緊張に影響しないか。（緊張可能な上部工施工であるか。鉄筋は機械式継手であるか等）					
		16)	伸縮継手の切り欠きが定着体の縁端距離を確保しているか。					
		17)	輸送制限に関して部材寸法を確認したか。					
		18)	用地境界の取り合いを確認したか。（上部工、下部工と用地境界の離隔等）					
		19)	維持管理計画が反映されているか。					
		20)	施工に配慮した設計図となっているか。					
		21)	P C 鋼材の緊張スペースは確認したか。					
		22)	PC鋼材の定着部が配筋に配慮されているか。					
		23)	開口部等の補強鉄筋、追加鉄筋は適切か。					
		24)	設計計算書に示された設計検討断面の配置鉄筋量が図面に適正に反映されているか。					
		25)	図面が明瞭に描かれているか。（構造物と寸法線の使いわけがなされているか。）					
		26)	起点・終点の向きは適正か。					
3	数量計算書	1)	数量計算は、数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか。（有効数字、位取り、単位、区分等）					
		2)	数量計算に用いた寸法、数値、記号は図面と一致するか。					
		3)	数量取りまとめは、種類毎、材料毎に打合せ区分にあわせてまとめられているか。					
		4)	数量計算の根拠となる資料（根拠図等）は作成しているか。					
		5)	橋台の後打ちコンクリートを分離して計上しているか。					
		6)	橋台背面アプローチ部の数量を算出しているか。					
		7)	施工を配慮した数量計算となっているか。（伸縮装置のフェイス下端及び下フランジ下端の無収縮モルタル等）					
		8)	工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。					
		9)	数量全体総括、工区総括、ブロック総括等、打ち合わせと整合し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。					
		10)	使用する材料の規格及び強度等は記入されているか。					
		11)	部材重量（ブロック重量）を確認したか。					
		12)	塗装面積が塗分け区分図と整合しているか。					

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

No.	照査項目	照査内容	照査③			確認資料	備考
			該当対象	確認			
				確認日			
			該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 （例）関連基準類、過年度成果の該当頁 等	設計業務等照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照
4	施工計画書	1) 施工時の道路・河川等の切廻し計画は妥当か。					
		2) 工事用道路、運搬路計画は妥当か。					
		3) 施工ヤード、施工スペースは確保されているか。					
		4) 部材長、部材寸法、部材重量は適正か。					
		5) 施工方法、施工手順が妥当であるか。					
		6) 施工に対する申送り事項が記載されているか。					
		7) 支保工、仮設備等は妥当か。					
		8) 施工工程は妥当か。また、隣接工区との工程が考慮されているか。					
		9) 経済性、第三者を含む安全性の確保はされているか。					
		10) 工事中の環境面が配慮されているか。					
		11) 施工機械の種類、規格は適切か。					
		12) 施工時の重機やベント等の安定・安全性は適切か。					
		13) 全体事業計画との整合が図られているか。					
		14) 河川内に仮設構造物を構築する際、非出水期、出水期を考慮しているか。					
		15) 河川管理者との協議結果（施工方法、施工時水位、阻害率等）が反映されているか。					
5	設計調書	1) 設計調書の記入は適正になされているか。					
	2) マクロ的に見て問題ないか。（設計条件、幾何条件、主要寸法、主要数量（例、m2当たりコンクリート量、m3当たり鉄筋量、m2当たり鋼重等）を類似例、一般例と比較する。）						
6	設計概要書	1) 設計概要書は作成したか。					
7	赤黄チェック	1) 赤黄チェック等により照査したか。					
8	報告書	1) 報告書の構成は妥当か。また、特記仕様書の内容を満足しているか。					
		2) 打合せや協議事項は反映されているか。					
		3) 設計条件の考え方が整理されているか。					
		4) 比較検討の結果が整理されているか。					
		5) 今後の課題、施工上の申し送り事項及び工事発注に際しての留意事項が記述されているか。					
		6) 富山県電子納品運用ガイドライン（案）（土木調査設計業務編）に則った電子納品となっているか。					
9	コスト縮減	1) 実施したコスト縮減効果は整理したか。					
10	建設副産物対策	1) リサイクル計画書を作成しているか。					
11	TECRIS	1) TECRISの内容について、発注者と確認を行ったか。					

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

追加項目記入表

No.	照査項目	照査内容		照査③			確認資料	備考
				該当対象	確認			
						確認日		
				該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	設計業務等照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照